

「わが愛するふるさと——岩室村」を再確認して、よりよいふるさとづくりをしよう——とこの七月からスタートした生涯学習推進事業の「おらが村岩室ふるさと講座」。これがいまどつても新鮮で大評判なんです。このふるさと講座——七月から十一月までに十二回のプログラムが組まれ、ただ講義を聞くといった受け身!の講座だけなく、受講者（毎回約七十人前後）が直接、現地探訪をする体験学習的メニューなんかも盛り込まれ、ひと味違った教養・活動として人気です。今号では、これまで約半分のプログラムを消化した、このふるさと講座をみなさんと一緒にのぞいてみたいと思います。



丸山恭平さん
(和納12区・61歳)

村づくりに生かせたら

岩室村にお世話になつて十年くらいなものですから、「岩室村」のことをもっとよく知りたいと思うことがあります。どの講師のかたもよく研究されていて、わかりやすい解説に満足しています。

わたしはもと教員をしていましたので、社会科の副読本づくりに参加したことがあります。かなか大変ですね。その点、みなさんが本当に熱心で感心しています。

研究や学習では、過去を知り、現在を確認し、そして未来への展望を図る、といったことが大切なよう気がします。そのため、この講座では、過去そして現在の岩室

郷土史の検証から、いろいろな情報を吸収して未来の村づくりについて興味のあるところですね。一つの講座は、過去そして現在の岩室村を再確認して、将来の岩室村をどういう方向に発展させていくかと思ひます。そんなことも含め、この講座は有意義だと思ひます。

古代のロマンと歴史の探訪ツア! いま「ふるさと講座」が大人気!



旧間瀬銅山跡では、実際に銅鉱石、?の採取も

「ふるさと講座」が「村づくり」のはじまり

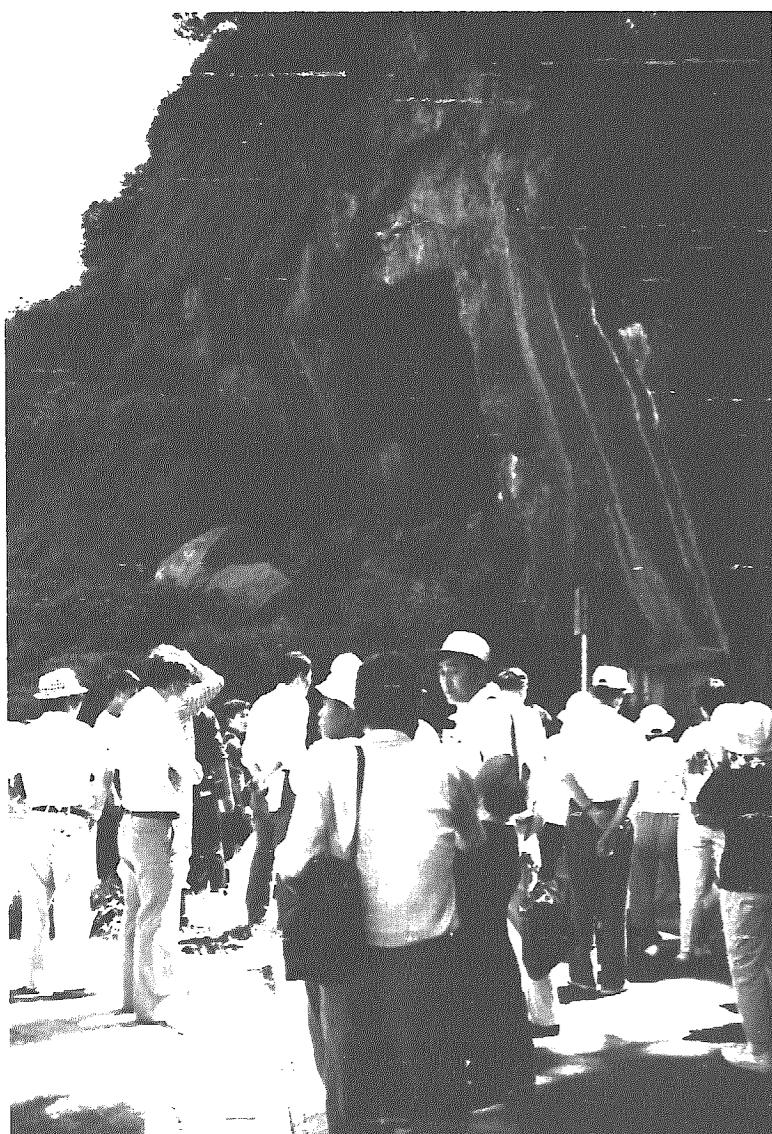
よ——とこの七月からスタートした生涯学習推進事業の「おらが村岩室ふるさと講座」。これがいまどつても新鮮で大評判なんです。このふるさと講座——七月から十一月までに十二回のプログラムが組まれ、ただ講義を聞くといった受け身!の講座だけなく、受講者（毎回約七十人前後）が直接、現地探訪をする体験学習的メニューなんかも盛り込まれ、ひと味違った教養・活動として人気です。今号では、これまで約半分のプログラムを消化した、このふるさと講座をみなさんと一緒にのぞいてみたいと思います。

知っている人は知っているが、知らない人はまったく知らない?という生涯学習推進事業（生涯を通じた学習体制を整えるまちづくり事業）の実践活動「おらが村岩室ふるさと講座」が、この七月からスタートしていますが、これがいま、とっても新鮮で好評なのです。

実はこの講座、岩室村の自然や歴史、生活や風俗習慣など幅広い視点から村を、そして地域を理解してもらいたい村づくりをすすめよう——と、村教育委員会がプログラムを開発。この七月から十一月までの五ヵ月間に計十二回の講座が組まれています。それでは、先月までに五回開かれた（実

は、三条商業高校の桑原正史さんが、古代の蒲原地方について解説。とくに『古事記』に出てくる白鳥伝説の「①和那美の水門」の場所が、本村の和納の可能性もある、との指摘があり、受講者の強い関心を集めていました。

また八月七日の三回目の講座は、新潟江南高校の金子拓男さんが、「弥彦・角田山周辺の遺跡と古代の岩室」について、話をしました。本村でも樋曾や石瀬、間瀬などで、②縄文時代の遺跡が発見されていますが、それより後世に造られた古墳群となると、隣の巻町や弥彦村に比べて格段に少なく（いまだ樋曾の観音山古墳のみ確認）、



間瀬下山海水浴場前では、間瀬石（かまどなどに利用されました）の石切り場を検証。実際に穴の中にも入ってみました（9月4日）。

②縄文時代…縄文式土器を標式とする新石器時代。紀元前8000年から数千年間続き、弥生時代と交代する。

回には九月四日の現地研修を入れると、六月になります）講座の様子を順を追つて紹介しながら、さらに村の良さ、すてきさを再発見してもらうため、これから講座メニューんんかも合わせて紹介しますので、「これは興味がありそうだな」「これなら出てみたい」という講座がありましたら、お気軽に参加してみてください。もちろん、解説にあたる講師群は、この人を生がたです。それでは、いよいよ話題?!の「ふるさと講座」をみてみましょう。

まずは岩室村の自然や

古代を知ることから

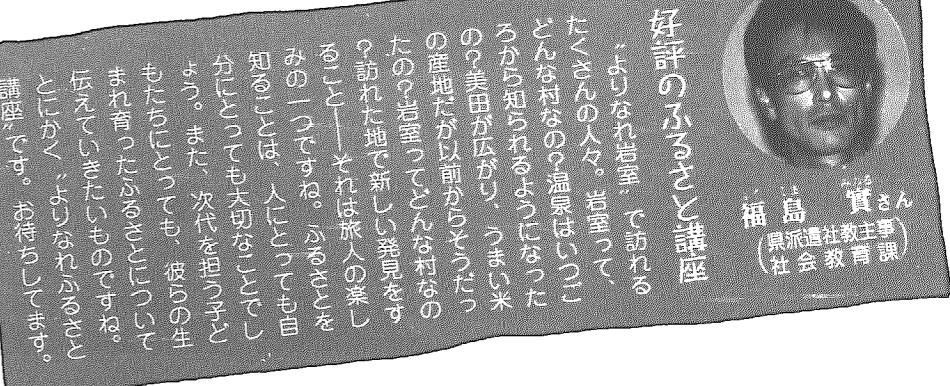
青陵女子短期大学の長嶋義介助教授が、約七十人の受講者に対し、「岩室村の自然と風土」をテーマに講演しました。そこでは、「角田山から弥彦山に連なる一帯は、気候が複雑で全国的にも貴重な自然が残っています。とくに雪割草やモリアオガエルなどの動植物も豊富で、守っていかなければならぬものが多いですね」などの話があり、受講者は熱心にメモをとっていました。

続々七月九日に開かれた二回目の講座で

好評のふるさと講座

よりなれ岩室で訪れる多くの人々。岩室つてどうな村なの。産地だからこそ旅人の楽しさと——それは旅人の楽し

みの一つですね。ふるさとを知ることは、人にとつても自分にとっても大切なことでしょ。また、次代を担う子どもたちにどうても彼らの生まれ育つたふるさとについて伝えていきたいのですね。とにかく、よりなれふるさと講座です。お待ちしております。



①和那美の水門…『古事記』に載っている白鳥物語に出てくるもので、網を張って白鳥を捕えた所といわれ和納の可能性も…。